

☒ 法人☐ 個人事業主

## 事業実施計画書 (DX強化枠)

## 1 実施主体の概要

企業名	お食事処●●●●●	
住所	(〒●●●●-●●●●●) 北九州市小倉北区城内●-●	
(フリガナ) 代表者名	姓 ( キタキュウ ) 北九	名 ( タロウ ) 太郎
業種	<input type="checkbox"/> 製造業 <input type="checkbox"/> 建設業 <input type="checkbox"/> 運輸業 <input type="checkbox"/> 卸売業 <input type="checkbox"/> 小売業 <input type="checkbox"/> 宿泊・観光業 <input checked="" type="checkbox"/> 飲食業 <input type="checkbox"/> 理美容業 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
資本金・出資金 (千円)	●●●千円	
従業員数 (代表者を除く)	●●人	
(フリガナ) 担当者職・氏名	(キタキュウ タロウ) 代表 北九 太郎	
電話番号・ファクシミリ	(電 話) 093-●●●●-●●●●● (FAX) 093-●●●●-●●●●●	
担当者メールアドレス	●●●●●@●●●●●.co.jp	
誓約事項  ※誓約する場合は、各項目の誓約欄に○を記載すること。  <u>※必ず、全項目、確認すること。</u>	提出にあたり、以下の事項について確認し、相違ないことを誓約します。	
	誓約	項目
	<input type="radio"/>	宗教上の組織若しくは団体に該当しないこと。
	<input type="radio"/>	現在において事業を実施していること。
	<input type="radio"/>	市税の滞納その他の市に対する債務不履行がある等補助金の交付が適当でないと認められる者でないこと。
	<input type="radio"/>	本書の記載内容及び提出書類について、不正や虚偽がないこと。
	<input type="radio"/>	株式会社の場合にあっては、発行済の株式が中小企業者以外の会社により2分の1を超えて保有されていないこと。
	<input type="radio"/>	当該助成金と別に国、県、市もしくはこれらの関係団体又は民間団体による他の助成金等を受けている、又は受ける予定がないこと。
	<input type="radio"/>	実績報告の際にデジタル技術を活用した生産性向上計画書を提出すること
	<input type="radio"/>	当該助成金の交付を受けた後、アンケートの実施や事業効果等のヒアリングに協力すること

3 事業の概要

事業期間	開始	令和 8 年 4 月 3 0 日	終了	令和 9 年 1 月 7 日 ※令和 9 年 1 月 7 日まで(事業に係る支払を含む)
------	----	------------------	----	---

4 事業費及び助成金の見込額

(1) 事業（取組）実施に必要な経費（支出）

実施区分	費目	経費概要	発注先／所在地	金額(消費税抜きの額)	合計額(A)
デジタル技術を活用した生産性向上計画書の作成	委託費	計画書作成に向けた支援委託	株式会社〇〇 (北九州市)	3,000,000 円	4,500,000 円
	調査費	業務フロー分析依頼	株式会社△△ (北九州市)	400,000 円	
	機械器具費	デジタル機器やシステムの簡易検証経費	株式会社■ (北九州市)	1,000,000 円	
	外部研修参加費	業務プロセス可視化研修受講	株式会社◎◎ (北九州市)	100,000 円	
助成金の見込額 ※千円未満切り捨て					
※助成対象経費合計額 (A) 60万円(税抜)以上が対象					2,000,000 円
助成対象経費合計額 (A) × 1／2 (上限額200万円)					

(2) 資金計画（収入）

区分	金額（消費税抜きの額）	調達先
本助成金	2,000,000 円	公益財団法人北九州産業学術推進機構
自己資金	2,500,000 円	—
借入金	円	
その他 ( )	円	
合計	4,500,000 円	(1) 合計額 (A) と同額

5 実施内容（記載欄内の赤字は記載内容のイメージです）

現在の事業の実施内容	地元食材を活用した創作料理を提供する飲食店を運営している。
生産性向上に向けた課題	<p>創作居酒屋 2 店舗を運営しているが、昨今の人手不足でアルバイトの担い手が見つからず少数の従業員でキッチン業務及びホール業務を回している状態であるため以下の課題に直面している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・客数が増える週末などの繁忙時間において注文がスムーズに通らずクレームになることがあり客単価の低下を招いている</li><li>・週末繁忙日に備えホールスタッフを増員しているが、天候の影響等で客足が平日並みになることが月 1.2 回発生しており、費用のみ増え利益率の低下を招いている</li><li>・毎週更新している創作メニューが非常に人気で利益率も高い商品であるが、創作メニュー開発担当の A 店店長兼キッチンスタッフの C 氏が、昨今の求人不足によるア</li></ul>

	<p>アルバイトスタッフ不足でA店だけでなくB店の締め作業や在庫管理も一部担っているため繁忙となり、創作メニュー開発に十分注力ができず、更新が遅れ常連客の利益率低下に繋がっている可能性がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前経営者の方針でキャッシュレス未対応であるため一部の顧客に敬遠されている可能性があり、同時に顧客数及び売上面で伸びしろではないかと考えている</li> <li>・InstagramによるSNSでの発信と創作メニューの見た目の相性の良さが功を奏し客足のベースが上がってきているため、営業時間の拡大や、できれば営業日を増やしたりしたいが、求人に対して応募が芳しくなく、今後も改善する確証は無いため、現存メンバーで捌ける顧客数を増やすための業務フロー等見直しを実施したい</li> </ul>
前項の課題解決に向けてイメージするデジタル技術の活用	<p>前項課題を解決する手段として、先行事例などを調べた中で下記のような取組が適切ではと考えている</p> <p>①モバイルオーダーやテーブルオーダーの導入 モバイルオーダー又はテーブルオーダーを各席に導入することで注文受付の効率化を図ると共に、注文ミスの削減による顧客満足度向上に繋げたい。 同時にD社POSシステムサービスを利用して、それにオーダー情報を取り込み、締め作業、在庫管理、売上集計まで一貫して連携させることができるのではと考えている</p> <p>②セルフレジ・キャッシュレスの導入 セルフレジの導入で主にホールスタッフの会計時対応工数削減を図れるのではと考えている。また現在導入が遅れているキャッシュレス支払いへの対応によって顧客層の拡大、リピート率向上、現金支払減によるレジ締め作業の負担軽減を実現したい。</p> <p>③在庫管理のデジタル化 ①のモバイルオーダー又はテーブルオーダー導入やPOSシステムサービス導入に伴い、POSと在庫管理の連動についても検討していきたいと考えている。もし可能であれば市場等で直接仕入れている食材以外について、発注先の対応次第ではあるが自動で注文できる仕組みを構築していきたい。</p> <p>④従業員のシフト作成自動化 従業員の希望シフトに対してAIによるシフトの自動作成を取り入れることで店長の事務削減はもちろん、繁忙期・閑散期のシフト最適化や作成時のミス防止に繋がる。またシフト作成の遅れや公平性に関する従業員の不満についてもAIが介入することである程度和らげられ、店長の心理的負担軽減にも繋がり、組織全体の離職率低下を期待している。</p>
計画作成に向けて助成期間中に行う具体的な作業	<p>前項①～④の取組について具体的に進めるに当たっては、下記の流れを想定する</p> <p>i. 現状の業務フローの再確認と各工数調査 ii. 導入する自社に適したシステムや機器の定義付け iii. 選択肢として対象となるシステムや機器の調査 iv. 検討・検証から導入までのワークフローの確認 V. 費用や工数削減効果などを予測した上での取組の優先順位付け VI. 想定ロードマップの作成</p> <p>iを行った後、①～④の実現に向けて導入が必要な機器・システムについてそれぞれii～ivを実施する。その後Vで費用の大きさ、導入の容易さ、効果の高さの三つの軸で取組や機器・システム導入の優先順位付けを行う。それを受けてVIのロードマップを作成する。 従業員に理解を得ながら十分な検討・検証の実施を行いながら1つずつ進めていくこ</p>

	<p>とを加味して漠然とはあるが1年～1年半で全ての取組について実装を終えるのを目標とする。</p> <p>助成対象経費については、北九州〇〇社に計画書作成全般に関する支援を依頼する。業務フローの分析調査においては従業員が主体となり各工程の洗い出しを進めつつ、最終的に北九州△△社に分析を依頼したい。また各種取組で実際にツールとなる機器・システム・サービスの軽微な検証まで行うのが理想と考えており、具体的にはモバイルオーダー/テーブルオーダー機器の利用、セルフレジのレンタルなどを北九州■社の協力で実施したい。また取組を従業員一丸となって進めるための理解促進や主体的な参加を促す意味でも北九州◎◎社が実施している飲食店向けの業務プロセス可視化研修を受講したいと考えている。</p> <p>上記の経費については現状の想定であるため、事業を進める中で中身、金額、依頼先などに変更が生ずる場合が起こり得るが、そのような場合は逐次報告相談するもの。</p> <p>それらを実施したうえで生産性向上に向けたデジタル技術活用計画書を1月までに作成して助成対象期間内に提出する。</p>
作成する計画の実施によって期待する効果（見込）	<p>作成する計画を遂行する効果は本事業を進める中でより明らかになっていくが、現時点の想定としては、一般的な飲食店同様に自社でも経費の大きな割合を占める人件費について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールスタッフを1名減らしても回ることによる支払給与削減</li> <li>・締め作業や在庫管理、仕入れ管理で発生している残業の削減</li> <li>・シフト調整作業の削減及びシフト最適化による過剰配置の削減</li> </ul> <p>などによって20%～30%の人件費削減効果を見込む。また在庫管理の適正化を図ることができれば、食材ロスの10%程度の低減も期待できる。</p> <p>加えて、オーダー漏れの防止、会計誤差の防止、セルフレジやキャッシュレス導入による会計滞留の減少など顧客満足度低下につながるリスクを減らす効果もあると考える。</p> <p>そして何より、創作メニュー開発への注力による利益率向上、営業日の増加による売上増、従業員満足度向上による離職による損失の削減など自社の成長を大きく進められる効果も見込む。</p> <p>一連の計画実施により収益基盤を強化し、3店舗目、4店舗目と事業拡大につながる基盤づくりを行いたい</p>